



大正区 未来わがまち ビジョン

新発見！！人・まち・自然

平成18年3月

大正未来わがまち会議

目 次

1. わがまち会議の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	1
(1) 大正未来わがまち会議とは？ ・・・・・・・・	1
(2) 会議の開催経緯 ・・・・・・・・	2
(3) 委員名簿 ・・・・・・・・	6
(4) グループ分け ・・・・・・・・	7
(5) わがまち会議への想い ・・・・・・・・	9
2. 大正区未来わがまちビジョン ・・・・・・・・	10
(1) わがまちビジョンの概要 ・・・・・・・・	10
(2) グループの提案 ・・・・・・・・	11
「人自慢・まち自慢」 ・・・・・・・・	11
「大正をよくしようプロジェクトB」 ・・・・・・	14
「ふれあいまちづくりグループたいよう」 ・・・・	18
「チワワの瞳」 ・・・・・・・・	22
「ぐるっとリバー」 ・・・・・・・・	26
3. 本格実現へ向けた試行（トライアル）企画 ・・・・・・	31
(1) 企画チーム ・・・・・・・・	31
(2) 試行結果 ・・・・・・・・	32
(3) その他関連した動き ・・・・・・・・	36
4. 実現にむけて・・・・・・・・	37

1. わがまち会議の概要

(1)大正未来わがまち会議とは？

区民自ら、地域の特性や魅力を活かした大正区の将来像や、その実現にむけてのアイディアなど、まちづくりの方向性を考える取り組みで、平成16年8月から平成18年3月にかけて実施しました。地域相互のまちづくりの情報交換や区民と行政の情報交換という役割も果たしています。

(参考)

会議の目的（「大正未来わがまち会議の内規」より抜粋）

本会は、区民が地域の特性や魅力を活かした大正区の将来像を描くとともに、その実現にむけて、区民自らが創意工夫を図りながら取り組むまちづくり活動の指針を策定することにより、大正区の発展に寄与することを目的とする。

(2)会議の開催経緯

設立

①設立会：平成16年8月18日

自己紹介・会議概要説明



②第1回：平成16年9月13日

会議の目標・各委員の興味事項の出し合い

テーマ設定 グループ分け

③第2回：平成16年10月22日

グループ分け(5班)・入手したい情報整理



④第3回：平成16年11月19日

テーマ別入手情報共有・フィールドワーク企画

現地調査

⑤フィールドワーク：平成16年11月28日～12月16日

各グループごとに実施



⑥第4回：平成16年12月20日

フィールドワーク成果発表



将来像設定

⑦第5回：平成17年1月27日

10年後の具体的な将来イメージ出し

⑧第6回：平成17年2月22日

おもしろ市民活動紹介・グループを超えた交流



アイデア出し

⑨第7回：平成17年3月18日

将来像実現のためのアイデア出し



⑩第8回：平成17年4月28日
中間とりまとめ確認

⑪第9回：平成17年6月21日
実現のためのアイデアの優先順位づけ



⑫第10回(大正一周クルーズ)：平成17年7月2日
大阪ドーム前岩崎港発、大正内港、福町堀、
などを通り大正区を船で一周



⑬情報交換会：平成17年7月28日
自由な意見交換



⑭第11回：平成17年11月2日
キャッチフレーズづけ
試行するアイデア絞り込み

⑮チームごと企画会議：平成17年11~3月
試行する企画の内容・スケジュール
(来年度の本格実施をふまえ)
①地域資源発掘(企業見学等)
②防災マップのモデル作成
③子どもと船で大正区一周



⑯第12回：平成18年1月17日
区民への意見募集
アクションプランの進捗・フォーラム
試行する企画の最終検討



⑰フォーラム：平成18年2月23日
アクションプランとフォーラム合同実施
委員から提案の発表



⑱第13回：平成18年3月15日
試行企画のとりまとめ
各グループ別の活動総括
区民意見募集のとりまとめ
わがまちビジョンのとりまとめ

■「大正未来わがまち会議」開催経緯詳細

会議名称	日時	場所	出席者	内 容
設立会	H16.8.18 19:00～ 20:20	大正区コミュニティセンター第4・5会議室	委員 26 名 大正区 9 名 コンサルタント 2 名	・委員自己紹介 ・わがまち会議の設立について
第1回会議	H16.9.13 19:00～ 21:20	大正区役所第7会議室	委員 30 名 大正区 9 名 コンサルタント 6 名	・委嘱状交付 ・今後の進め方について ・各委員の興味事項の出し合い
第2回会議	H16.10.22 19:00～ 21:20	大正区役所第7会議室	委員 23 名 大正区 2 名 コンサルタント 5 名	・前回意見の整理・11テーマに類型化 ・グループ分け（5班） ・各自が取り組みたいこと、現況把握のため入手したい情報の整理
第3回会議	H16.11.19 19:00～ 21:20	大正区役所第7会議室	委員 29 名 大正区 7 名 大阪市 1 名 コンサルタント 5 名	・委員、区役所が持ち寄った情報の共有 ・フィールドワークのテーマ、内容の検討
フィールドワーク				「人自慢・まち自慢」…商店街・沖縄文化活動者・企業などへ個別ヒアリング 「大正をよくしようプロジェクトB」…11/28、放置自転車の現況確認、関係者ヒアリング等 「ふれあいまちづくりグループたいよう」…12/10、小学校校長先生にヒアリング等 「チワワの瞳」…12/2・3・8・16、小学校協力打診、小学校児童へアンケート実施、集計 「ぐるっとリバー」…12/3、大正区を船で一周、水上カフェで休憩
第4回会議	H16.12.20 19:00～ 20:30	大正区役所第7会議室	委員 24 名 大正区 8 名 大阪市 1 名 コンサルタント 5 名	・フィールドワーク成果のとりまとめ
第5回会議	H17.1.27 19:00～ 21:10	大正区役所第7会議室	委員 21 名 大正区 9 名 大阪市 1 名 傍聴 2 名 コンサルタント 5 名	・具体的な将来イメージの出し合い 様々な主体ごとの 10 年後の将来像をイメージする
第6回会議	H17.2.22 19:00～ 21:00	大正区役所第7会議室	委員 20 名 大正区 8 名 大阪市 1 名 コンサルタント 5 名	・活動指針のとりまとめイメージ説明 ・各テーマに沿った各委員さんのユニークな活動紹介（4名）、グループを越えた意見交換
第7回会議	H17.3.18 19:00～ 21:00	大正区役所第7会議室	委員 16 名 大正区 8 名 大阪市 1 名 コンサルタント 5 名	・中間とりまとめ案の確認 ・実現のためのアイデア出し
第8回会議	H17.4.28 19:00～ 21:00	大正区役所第7会議室	委員 22 名 大正区 7 名 大阪市 2 名 コンサルタント 5 名	・中間とりまとめ案の最終確認（公開準備） ・5グループ共同の各テーマ体験プログラム提案
他区合同会議	H17.5.21 10:00～ 12:30	市立中央図書館5F会議室	9区委員など	・各区情報交換

第9回会議	H17.6.21 19:00～ 21:00	大正区役所 第7会議室	委員 16 名 大正区 9 名 大阪市 1 名 コンサルタント 5 名	・代表者会議の報告 ・中間まとめの報告 ・各グループの重点事業の抽出
第10回会議 大正一周クルーズ	H17.7.2 10:00～ 12:00	大正区水辺	委員 14 名 大正区 6 名 コンサルタント 3 名 その他	・グループ提案の実現化
情報交換会	H17.7.28 18:30～ 20:30	大正区コ ミュニティセ ンター 3F ホール	委員 18 名 大正区 12 名 コンサルタント 3 名	・情報交換会
第11回会議	H17.11.2 19:00～ 21:30	大正区役所 4 階区民ホ ール	委員 14 名 大正区 10 名 大阪市 1 名 コンサルタント 5 名	・キャッチコピーの決定 ・来年度の実現に向けた試行アイディア (3つの企画チームに分かれる)
③チーム 企画会議	H17.11.16 19:00～	大正区役所 会議室	各チームの委 員、コンサルタント	・試行アイディアの具体化
①チーム 企画会議	H17.11.26 12:00～	大正区内	各チームの委 員、コンサルタント	・試行アイディアの具体化
②チーム 企画会議	H17.12.2 19:00～	大正区役所 会議室	各チームの委 員、コンサルタント	・試行アイディアの具体化
第12回会議	H18.1.17 19:00～ 21:00	大正区役所 第7会議室	委員 15 名 大正区 8 名 コンサルタント 5 名	・区民への意見募集 ・アクションプラン、合同フォーラム ・試行アイディアの具体化
②チーム 企画実施	H18.2.1 10:00～	大正区内	各チームの委 員、コンサルタント	・現地体験 車椅子で避難可能なコース
①チーム 企画実施	H18.2.6 10:00～	大正区内	各チームの委 員、コンサルタント	・企業見学
フォーラム	H18.2.23 13:30～ 16:00	大正区コ ミュニティセ ンター	区民 250 名	・アクションプランとの合同フォーラム ・活動、活動への想いの発表
③チーム 企画会議	H18.3.10 19:00～	大正区内	各チームの委 員、大正区、コ ンサルタント	・試行アイディアの具体化
第13回会議	H18.3.15 19:00～ 21:00	大正区役所 第7会議室	委員 14 名 大正区 9 名 大阪市 1 名 コンサルタント 3 名	・各企画のとりまとめ ・各グループ別の活動総括 ・区民への意見募集の結果報告 ・わがまちビジョンの最終案確認
合同情報交換会	H18.3.23 20:00～	大正区内	委員ほか 50 名	・アクションプランとの合同
「子どもと一緒に・ ぐるっとリバー」 ③企画実施	H18.3.26 10:00～ 12:00	大正区水辺	子ども 30 名 大人 27 名	・子どもと船で大正区一周

(3)委員名簿

各地域組織からの推薦や公募により、32名の委員により会議を行いました。男性18名、女性14名、平均年齢は51歳という構成です。

「大正未来わがまち会議」委員名簿

氏 名	備 考
新 子 文 雄	
網 野 正 夫	
上 村 一 夫	
大 川 雅 世	
大 本 昌 男	
菊 井 紀 子	
木 村 優	
金 城 馨	
近 藤 勲 子	
志 水 真 弓	
莊 田 静	
新 濱 みつ子	
仁 義 修	
高 橋 和 子	
武 田 惇	
寺 内 る み	
豊 原 卓 彦	
中 住 和 典	
中 野 一 美	
西 秀 男	
信 岡 悦 子	
野 間 知 君	
橋 本 政 志	
濱 田 章	
濱 田 真佐男	
東 道 美智子	
深 谷 巖	
堀 江 良 子	
松 浦 孝 子	
森 本 泰 次	
山 岡 芳 昭	
山 本 逸 子	
計 32名	

(4)グループ分け

■各委員さんの興味事項を類型化、グループ分けの前提となったテーマ

1. 区内の名物・観光資源を活かし、まちの自慢・イメージを発信したい
2. 公共交通の利便性を活かし、放置自転車や安全性など改善を通じて、皆が移動しやすい交通環境をつくりたい
3. 犯罪を減少させる工夫、緊急時の適切な対応も含めた治安改善についてとりくみたい
4. 地域社会(町会)や催し物、その他各種活動への参加などの気軽な地域活動への参加の工夫をしたい
5. 子供の遊び場、参加できる行事の工夫、大人のマナーなど、子供が元気に育つような環境をつくりたい
6. 区内の面白い人や得意技のある人材を発掘し、その方々に生涯学習や地域活動の場で活躍してもらいたい
7. 川や海に囲まれた地区特性を活かし、水辺をもっと親しめる環境にしていきたい
8. 公園や軒先の植木なども含め、緑の充実や地域ごとの工夫を進めていきたい
9. 工場と住宅の共存の工夫、道路上の不法投棄の改善など、企業と住民、企業同士の協力について考えたい
10. 水害やいざという時の避難など、災害への対応方法について考えたい
11. 地域福祉の促進、特に高齢者、障害者の支援活動の輪を広げたい

■グループ分け結果(5班)

「人自慢・まち自慢」

メンバー5名(網野さん、金城さん、仁義さん、寺内さん、野間さん(リーダー))

検討テーマ ①まちの自慢、情報発信

⑥面白い人材の発掘、活躍の場づくり

「大正をよくしようプロジェクトB」

メンバー5名(大川さん、菊井さん、高橋さん、豊原さん(リーダー)、山岡さん)

検討テーマ ②皆が移動しやすい交通環境

③治安改善

⑩災害への対応方法

「ふれあいまちづくりグループたいよう」

メンバー7名(上村さん、木村さん、西さん、信岡さん(リーダー)、堀江さん、森本さん、武田さん)

検討テーマ ④気軽な地域活動への参加の工夫

⑧緑の充実や地域ごとの工夫

⑪地域の福祉

「チワワの瞳」

メンバー6名(新子さん、近藤さん、中住さん(リーダー)、中野さん、橋本さん、東道さん)

検討テーマ ⑤子供が元気に育つ環境

⑨企業と住民、企業同士の協力

「ぐるっとリバー」

メンバー7名(大本さん(リーダー)、志水さん、新濱さん、濱田さん、濱田さん、深谷さん、山本さん)

検討テーマ ⑦水辺を親しめる環境へ

⑩災害への対応方法

■グループ検討の様子



(5)わがまち会議への想い

～平成18年2月23日開催のフォーラム(地域福祉計画アクションプランとの共同)の発表から～

- ・今自分たちが住んでいるまち、子ども達が育っているまちを、大正区で育ってよかったと思えるまちにしていきたいというのが究極の願いです。そのような想いで参加しました。
- ・語るだけで絵に描いた餅になったらいけない、ただ大きな目標はつくっておく。今できることと、今できないことだけこの方向で取り組んでいこうというものを作りました。まず一歩踏み出すことが大切と考え、大正区を子どもに船でぐるっと一周体験してもらおうという企画を実施することになった。実際に行動していくことが大事と感じています。



- ・わがまちビジョンのキャッチフレーズは新発見！！人・まち・自然。大正区にはこんな歴史、こんな人、こんな自然、こんな企業がある、もっと市民が知って愛郷心を育んでいくことが大事と感じました。また、大正区の財産を組み合わせれば新しいモノが生まれるのではないかと。川も観光資源と捉え、視点を変えて見てみると財産が新たに生まれてきます。また、新しい文化、若きアーティストを育てられるまちにしたい。組み合わせ、広く知ってもらえるよう、交流の場も必要と思います。まちづくりのキーワードは、地域資源の発見とそれをどう交流させていくのかということと感じました。
- ・地域の資源を私たち自身が知ろうということで、大正区の企業や人に話を伺った。私自身大正区を知らなかったなあと感じることばかりでした。地域の財産を発見しようという目で地域を見るのが大切ななあと感じました。

- ・子どもに各家庭では体験させてあげられないことを地域ぐるみで体験させてやりたい。子どもたちが自慢できるようなまちづくりを進めてきたい。今、川と海で囲まれている非常にめずらしい特性を活かした、大正アイランド体験を企画しています。船上から大正をぐるっと一周体験し、子ども達の視点で新しい発見をしてもらいたい。子どもの意見を参考に次の活動に活かしていきたい。この中から1人でも2人でも将来、このような活動に参加してくれる子どもが出てきてくれることを願っています。
- ・船を貸し切るのは費用の面で大変でした。子ども会と交渉し、協力をいただくことができ実現できそうです。とてもうれしかった。これだけではなく、いろいろなことをしていきたい。その時にはみなさんのご協力をお願いできたらと思います。



- ・防災マップをつくりました。まず自宅の周辺の地図をコピーし、各施設を色鉛筆で塗ることからはじめました。防災マップに何が必要かを話し、プロットしました。高齢者の方には物資保管場所の学校の位置や安全な避難経路がわかる見やすいマップ、防災リーダーや防災訓練に参加した方は各種防災器具の所在地、介助を担当して下さる方には介助が必要な家がわかるマップと、見る人や目的によってマップは変わります。いざという時に自分がどのように行動するか、避難コースなどを常に頭の中でイメージしておくことが大切と感じました。大正区の将来像をふれあいのある安心のまちと想定し、防災マップを通して取り組みました。
- ・会議を通じて障害者の方とお知り合いになり、お手伝いしましょうかといったら「ありがとう」と快く受け入れて下さった。わかりあえるために向き合えたことがよかったと感じました。

2. 大正区未来わがまちビジョン

(1)わがまちビジョンの概要

●大正区全体の将来像

「新発見！！ 人・まち・自然」

●取り組み方針

テーマ別に5つのグループにわかれ、それぞれについて実現のためのアイデアを3つ提案します。

てん てん てん ひか

①点と個 ・が輝るまち大正 (グループ：人自慢・まち自慢)

- ・人材をいかして大正のイメージを変えていく
- ・ポジティブイメージで企業をPR、沖縄文化を伝える

- ・歴史を伝え残したい
- ・企業の力を地域(まち)づくりにつなげたい
- ・アーティストが(沖縄民謡、etc)活躍できる場を育てたい

②安心・安全・大正安住アイランド (グループ：大正をよくしようプロジェクトB)

- ・大正のいろいろ問題なところをよくしよう！
- ・放置自転車の問題、防災の問題など

- ・通勤通学に自転車を使わなくていい街にしたい
- ・防犯・防災意識の向上のためにもコミュニケーションを豊かにしたい
- ・若い世代の防災意識の向上

③ふれあいのある明るい町大正 (グループ：ふれあいまちづくりグループたいよう)

- ・世代間交流を活発に
- ・小学校を軸にした町会・地域の連携、緑あふれるまちづくり・子どもを含めた地域づくりを

- ・町会ぐるみの防災に取り組みたい
- ・地域と子どものかかわりをもっと密にしたい
- ・自分のまちを住んでよかったと思えるまちにしたい(子どもたちのためにも)

④あなたのパワーでわくわくきらきら輝く瞳 (グループ：チワワの瞳)

- ・子どもがすくすく育つ街
- ・親子で参加できるようなイベントを通して、ふれあい、親子の絆を生む

- ・地域と学校と保護者をうまくつなぎたい
- ・大正区ふれあいマラソンを始めたい、続けたい
- ・昔遊び大会を地域で始めて広げたい(例：子供会や、百芸塾でやっているような、お年寄りが子供に伝授するような簡単な催し)

⑤新発見！ 水辺と夕日のまち大正 (グループ：ぐるっとリバー)

- ・区域を全部水で囲まれた区ならではの水辺環境を

- ・水上交通を運行する(大正駅⇄鶴浜⇄南港・天保山など)
- ・川から見ておもしろいスポットを増やす・PRする
- ・ぐるっとリバーコースを企画する(レンタサイクルで渡船、カフェでお茶、水上タクシー利用など)

(2)グループの提案

「人自慢・まち自慢」

キーワード：人材をいかして大正のイメージを変えていく、ポジティブイメージで企業をPR、
沖縄文化を伝える

①現在の資源及び課題

●資源

- ・大正区の生涯学習の講座は73講座以上。受講生は900人以上。先生の多くは区民の方。人的資源が豊富。
 - ・沖縄の方が多く住み、30年間自前で開催してきた沖縄文化を伝えるエイサー祭りがある。全国からお客さんを呼ぶお祭り。平成16年夏には、30周年で、世代をつなぐ大綱(5t、45m×2)を沖縄から運搬した。
 - ・大正区の沖縄文化を題材としたフィールドワークを年間50回程度開催している「関西沖縄文庫」という活動がある。関西周辺から学習の一環などとして小学生から大学生、学校教員まで、幅広い方々が参加している。
 - ・昔から商店街で商売されている方々がいる。
- 昔の大正区の雰囲気伝える写真が多く残っている。写真集は色々な人が好んで見る。
- ・大正区は話題が豊富。
 - ・昔の雰囲気を伝えるアパート、建物。
 - ・十六地蔵の話はアニメーションになっている。
 - ・大正区に愛着を持つ人が多い。
 - ・多くのアーティストが暮らす大正区。
 - ・24時間操業のため日本で初めて電灯を灯した紡績工場(大阪紡績)や、わが国最初期の空港(木津川飛行場)など、大正区は近代工業都市大阪の中心だった。現在でもすばらしい企業がたくさんある。
 - ・区内のすぐれた技術、歴史をもつ企業(社団法人大正工業会への取材協力による)

大正区のすぐれた技術(歴史)をもつ企業 資料

社団法人 大正工業会

(五十音順)

企業名	大阪鋼圧機				
ユニークな点	業界のバイオニアとして、昭和33年に当時最も近代的なスリッティング・カット・ライン設備を完成。以来増設改良を重ね、現在はホットコイル(熱延帯鋼)の処理能力と技術で業界のトップクラスを誇る。				
日本一、世界一のシェア					
特筆すべき事項					
企業名	株式会社機械製作所	TEL			
ユニークな点	超大型NC五面加工機を中心とした顕微鏡一級の高精度な技術を持つオペレーターを擁し、航空宇宙・発電・真空・液空・他あらゆる分野に向けて高品質の製品を供給し、高度な機械加工技術でその発展の一翼を担っています。				
日本一、世界一のシェア					
特筆すべき事項					
企業名	関西ロール機				
ユニークな点	ゴム機械専門製造メーカーとして他社にないノウハウをもち世界の有名企業の生産の一翼を担う。さらにロール安全急停止装置(MKブレーキ)の開発により、さらなる飛躍を目指す。				
日本一、世界一のシェア					
特筆すべき事項					
企業名	三立電器工業㈱				
ユニークな点	溶接棒ホルダー、ケーブルジョイント、アースクリップそれぞれの製品はシェア日本一を誇る。				
日本一、世界一のシェア					
特筆すべき事項					
企業名	泉順㈱				
ユニークな点	油圧式ワイヤローブカッター並びにワイヤローブブロック工用油圧プレス機のメーカーとして業界をリードし、シェアも全国屈指を誇る。				
日本一、世界一のシェア					
特筆すべき事項					
企業名	純ダイカン				
ユニークな点	サイン&ディスプレイの総合メーカー。独自の技術とオリジナルリザー、オンリー・ワンの技術者を擁している。近年、金属に変わるプラスチックを開発し、ハイエンド・ブランドショップから指定を受け、LEDを使用した電飾サインメーカーとしても、業界をリードしている。				
日本一、世界一のシェア					
特筆すべき事項					
企業名	株式会社大正工業研究所				
ユニークな点	昭和36年にペーパーフラックスによる溶接法特許取得など、職人技を必要とし機械化が困難な分野に挑戦しつづけて高度な工業化技術を開発。製品は国内はもとより世界世界的にも高く評価される。				
日本一、世界一のシェア					
特筆すべき事項					

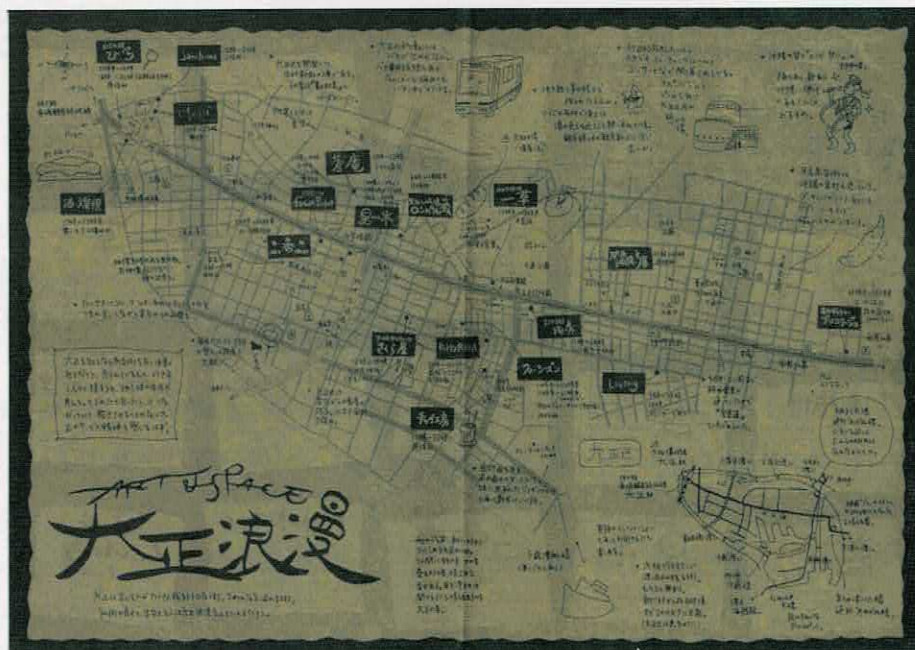
大正区のすぐれた技術(歴史)をもつ企業 資料

社団法人 大正工業会

(五十音順)

企業名	大和紙料㈱				
ユニークな点	創業明治9年。製紙原料業界でも老舗でありながら、古紙リサイクルパルプ(AGP)の製造販売・機密書類の溶剤処理など時代に対応する先進性も併せ持つ。シェアは全国業界5位以内。				
日本一、世界一のシェア					
特筆すべき事項					
企業名	東陽建設工機㈱		06-6552-0341	06-6553-6695	
ユニークな点	昭和25年日本で初の鉄筋加工機を製造したバイオニアであり、業界のトップ企業として活躍中。				
日本一、世界一のシェア					
特筆すべき事項					
企業名	株式会社山崎鋼所				
ユニークな点	平成13年11月に結晶粒径が2〜5マイクロメートルと極めて微細で、強度が従来鋼材の1.5倍である微細粒熱延鋼板の開発に成功し、世界で初めて工業的規模での生産を開始した。				
日本一、世界一のシェア					
特筆すべき事項					
企業名	㈱日本電機研究所		06-6552-1471	06-6554-0847	
ユニークな点	コンピューターを中核としたFA(Factory Automation)・CIM(Computer Integrated Manufacturing)の手法である、「情報と制御」を統合的にコンピューターネットワークする生産システムのソフト構築のほか各種の電機設備装置のメーカーとして、国内外に確固たる地位を築く。				
日本一、世界一のシェア					
特筆すべき事項					
企業名	丸一海運㈱				
ユニークな点	創業江戸中野の寛政元年(1754年)初代・横屋区五郎氏が、徳大寺の御用船を建造する「御用造船場」として創業。御用船の技術は、田中給(木造船)の建造に継承され時の変遷に対応してきた。大正初期から、船の造船、船運業を営み、総戦後には船運のみで営業を開始し、通関業・港湾運送業をベースに、国際物流への足がかりを築いた。今日では、化学工業製品等を主軸に、航空貨物を含み、国際物流の全面展開を図っている。				
日本一、世界一のシェア					
特筆すべき事項					

- ・大正のまちの浪漫(自由な空想、自由な感情を重んじたもの)を見つけるツールとして、有志の 18 店舗により、「大正浪漫マップ」を作成し、各店舗で配布している。



●課題

- ・どこかでつながっている人と人、そのつながりをどういかしていくのがこれからの課題。
- ・たくさんのアーティストが住んでいるが、発表の場、機会が少ないため、注目されず大正区から出ていく。
- ・ボランティアグループ間の連携がとりにくい。
- ・戦争体験も残していく。
- ・個々の区民の持つ情報をとりまとめる仕組み、発表の機会がない。
- ・「大正区＝公害のまち」というネガティブイメージが根強く残っている
- ・企業のポジティブイメージをどう伝えるかが課題
- ・高齢化が進み、このままでは庶民の歴史、戦争体験が埋もれてしまう。

②将来像

誰を・が	どのような状態 になったらいい
区民が	・大正区の成り立ちや人々、企業を身近に感じることで、歴史を知る大正区を好きになる
区内各小学校で	・大綱曳きの綱を編み、曳くことで、沖縄文化の魂を残し、ブームではない伝統を伝えていく
新しい文化が	・創造されるよう、バラバラな文化、ルーツをアーカイブ化する
企業が	・地域住民に親しまれ、活躍できる
アーティストが	・暮らし、発表できるまち
区民みんなが	・各種教室、生涯学習の講師や先生になれる

③実現のためのアイデア

アイデア	わがまち会議が担いたいこと	協力者に担ってほしいこと		行政に担ってほしいこと
		主体	担ってほしいこと	
No.1 歴史を伝え残したい	写真の収集 資料収集	歴史研究家	検証(正しい歴史を伝えるために)	編纂、発刊 展示会、講演会の開催 発表の場の提供
No.2 企業の力を地域(まち)づくりにつなげたい	企業と地元の橋渡し	企業 工業会 地元住民	施設開放 取りまとめ役 企業の情報提供 操業への理解協力	活動費用負担 法規制の整備・緩和
No.3 アーティストが(沖縄民謡、etc)活躍できる場を育てたい	アーティストの発掘 地域との橋渡し	アーティスト 店舗・飲食店	積極的な参加 ライブイベントなどの開催 店舗間の情報提供などの連携	発表の場の提供

その他

- ・ボランティアグループがコーディネートしたイベント、講演会の実現
- ・大正区の歌や踊りをつくっては？
- ・大正区の歴史を絵本で残し、大人が子どもに読み聞かせる
- ・長屋を活かして、情報ステーションとしては？
- ・現在の大正区の時代の写真や映像も残していく
- ・アーティスト MAP、アーティストのイベントの開催
- ・企業も町内会に入っては？
- ・個人の活動をバックアップするようなグループ(NPO)
- ・企業の体験学習を学校教育に！
- ・大正区独自の広報システムの構築
- ・空き教室を活用した郷土資料室の展開や地域のアトリエ・工房に活用
- ・子どもやお年寄りも一緒に生涯学習
- ・お年寄りのお話を聴いて記録
- ・企業の施設を活用した文化教室庶民の歴史を残していく(窯業、鑄造業 etc)
- ・大人も楽しめるような企業技術の公開を PR
- ・生涯学習で大阪の歴史(近代史)の講演の実現。
- ・区民の知恵を活かす。

「大正をよくしようプロジェクトB」

キーワード：大正のいろいろ問題なところをよくしよう！

①現在の資源及び課題

●資源

- ・市全域の取り組みとして、地域の見回りを月に一回している。
- ・年末やお祭りの時などに見回りをしている。
- ・PTA が自転車のカゴに「パトロール中」の張り紙をしてアピールしている。
- ・警察からの犯罪情報の回覧板がある。

●課題

- ・放置自転車。
- ・駐輪場の容量が少ない。
- ・自転車に登録制度が無い場合、自転車一つ一つで個人が特定できない。
- ・地域の意見を聞かずに整備しているのではないかな。
- ・ひったくり、どろぼうが多発している。
- ・犯罪時の防犯ブザーや犯罪情報の公開がない。
- ・交番に警察官が常駐していない。
- ・近所付き合いが希薄。



・防災について

ハード面

水門などの強度が心配。

災害時に水門などの扉が閉まる時間の短縮はできないか(現行は約 2 時間かかる)。

災害時に水門などの扉を自動的に閉めることはできないか(現行は手動で開閉)。

災害時に水門などの扉を誰でも開閉操作できるようにならないか(現行は職員が対応)。

→技術的な進歩や行政の考える範囲。

ソフト面

<防災リーダーについて>

防災リーダーが固定化している(人材がいない)

→防災リーダーに負担がかかる。

→みんなが防災リーダーにならないといけない。

→広く防災に対する意識の向上が必要。

→防災リーダーにとって、他の人への伝え方が難しい。

<避難場所や避難ルートについて>

逃げる場所がわからない(認知されていない)。

お年寄りが避難できないかもしれない。

②将来像

誰を・が	どのような状態 になったらいい
行政・市	・駐輪場の値段を安くする ・利用の少ない公園を駐輪場にする ・不法駐輪に罰金を課すようにする ・自転車を登録制にする
駐輪場管轄者	・自転車をレンタルする仕組みを作る
学校	・バスで生徒の送迎をする。
JR	・自転車用のタイムパーキングを作る ・高架下のスペースを利用して駐輪場を設ける
住民	・ボランティアとして駅周辺の不法駐輪の整理をする ・放置自転車の危険性を認識し、公共交通を利用するようにする
行政区	・放送メディアを運営して、区の情報を流す ・災害時の道路状況を知らせる ・同報無線のスピーカーを増やす ・水門の強化をする
警察	・災害時の警報などの徹底をはかる
住民や先生	・災害に対して勉強しておく
家族一人一人	・自分の居場所を連絡して、家族がお互いの居場所を確認しておく

③実現のためのアイデア

アイデア	わがまち会議が担いたいこと	協力者に担ってほしいこと		行政に担ってほしいこと
		主体	担ってほしいこと	
No.1 通勤通学に自転車を使わなくていい街にしたい	駐輪スペースを考える	鉄道会社	駐輪場から駅へのアクセスの向上を考える レンタサイクルシステムの導入を考える 公共交通と自転車駐輪場の連携を考える	駅へ向かうバスのバス停への赤バスルート 自転車を課税対象にする
No.2 防犯・防災意識の向上のためにもコミュニケーションを豊かにしたい	意識を広めるためのアイデアについての情報収集	各種地域団体	治安向上のための声かけ運動 隣組のコミュニケーションを豊かにする	警察官などが見回りをしたり、24時間連絡が取れる体制づくり
No.3 若い世代の防災意識の向上	防災活動の企画 各地の事例収集 災害に備えて地域資源の確認	消防や警察	各学校における子どものところからの教育 教材としても使える防災マニュアルの作成	防災に関する様々な調査

その他

～放置自転車を減らすには～

- ・バス停や駅などの交通拠点に多い。
- 公共交通の利用促進にメリットを与えればいい。
- 都市型レンタサイクル(観光型も)はできないか。
- サイクルポートをつくる。
- ・撤去を強化する。
- ・駐輪スペースを作る。
- 駐輪場に止めたいのに容量が少ない。
- お金がかからないような施設が必要。
- スペースはあるので、作ればよい。
- 自転車駐輪可能空きスペースチェック。
- ・駅周辺において、自転車を置くことができる線路の高架下などの空きスペースや歩道幅員の大きいところをチェックして、自転車が駐輪できるスペースの確保を考える。
- ・現状の駐輪場の利用状況なども把握して、大正駅周辺の自転車問題について、多くの人が関心を持つような取り組みを实践する。
- ・駐輪場から駅へのアクセスを向上させる。
- アクセスの便を向上させれば少々遠くても自転車を止めるのではないか。
- ・自転車を課税対象にする。
- 課税することによって個人が特定できる。
- 課税によって収益が得られ、自転車環境の整備が進む。無駄な自転車がなくなる。

～治安改善には～

・地域や他人に関わりたくない人が多い。

→安心して暮らせるまちにしたい。

→声かけをする。

～災害の被害を減らすには～

・若い世代に防災意識を高めてもらう。

子どもの親が参加しやすいように参観日やイベントに合わせて、訓練や啓発活動を行う。

地域にいる若い世代として中学生や高校生に着目し、積極的に防災意識向上に努めてもらう。

・隣組のつながりを強くしよう。

日頃からコミュニケーションを豊かにする。

避難所の運営がスムーズにできるように訓練しておく。

・災害に備えて地域資源を確認しよう。

災害時に使える工具がある場所をマップにする。

建物の耐震性の調査を行う。

飲み水の確保として、井戸の水質調査を行う。

・防災のための具体的取り組みとして、

災害時備品チェック

防火槽チェック

身近な避難場所チェック

水害時の避難場所として 3F 以上の建物チェック

井戸チェック

・災害時マニュアルをつくる。

災害時は町会単位という比較的小さな範囲での行動が有効である。

防火槽や備品、井戸は災害時に活用できるものとして、地域で把握しておくのがよい。

災害時マニュアルがあれば避難などがスムーズにいくのでないか。

マニュアルは世帯単位でオリジナルなチェックシートが作成できるような工夫をする。

マニュアルを教材として活かせるようにしたほうがよい。

災害時マニュアルを「わがまち会議」として作成し、配布できればよい。

「ふれあいまちづくりグループたいよう」

キーワード: 明るくつながりのあるまち ―世代間交流を活発に!!―

小学校を軸にした町会・地域の連携があるまち

小学校・地域が連携した状態で、緑あふれるまちづくり・子どもを含めた地域づくりを目指す

①現在の資源及び課題

●資源

北恩加島小学校

・児童安全サポート<平成 17 年 3 月 3 日スタート>

(現在約 90 名が登録している。)

地域内の時間のある人(引退した人を中心に)に学校に来てもらう。

そのことから、下記のようなことが自主的に派生すればいいと考えていた。

- ・学校を見回り、子どもの安全を地域ぐるみで考えていく
- ・同じウインドブレーカーを着用し、子どもの登下校の見守りをする。犯罪の抑止力が目的。
また、同時に挨拶運動もおこなっている。
- ・現在、毎日約 20 名が集まっている。まちかどに立つ人たちは自主的におこなっている。
知的障害者のサポートをするために地域の会館を貸す。学校も協力している。

鶴浜小学校

・自然体験

堀をビオトープにして、子ども達の自然体験の場になっている。(微生物が 100 種類もいる 水鳥が寄ってくる)



北村南公園

・2002 年、公募により子どもや大人が岸壁に絵を描いている。

その他

- ・はぐみネットの活動。
- ・ふれあい農園への子どもの参加(土と親しむ機会)。
- ・年6回、小学生と老人会の方の食事会をおこなっている。
- ・学校を開放し、地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりをしている。また、学校を開放し、地域住民が子どもと一緒に花を育てるなどの活動をしている。



ふれあい農園(南恩加島小学校)

●課題

- ・北村南公園は、木があるため絵が見難い。ゴムマットは見栄えが悪くなる。夜は暗く人が近寄り難い状況。
また、北村南公園から見える内港には廃船が停留しているので、見栄えが悪い。
- ・ふれあい農園をおこなおうという意識を持っている人はいるが、なかなか周囲に広まらない。アピールがうまくできていない。
- ・地域の工業・産業がどうしているのかわかり辛い。
- ・新住人・マンション住人の方が町会に入っていない。
- ・子どもが地域活動に参加できる機会が少ない。一行政管轄の地域活動の日が重複しているので、子どもを地域活動に呼び込もうにも呼び込めない。
⇒例えば、クリーン大阪の日と区民ハイキングの日が同じ。

②将来像

誰を・が	どのような状態 になったらいい
若い人が	・地域に興味を持って欲しい。
子どもたちが	・興味をもつものや集まるところがあってほしい。
地域住民が	・交番連絡所を中心に子どもの安全を見守る。 ⇒大阪府が管轄しなくなった交番連絡所を利用して、地域住民が子どもの安全を見守る場所・地域の道案内の場所などに役立てられるように、地域住民に開放するなどの配慮をしてほしい。そして、その維持管理は地域と行政が役割分担しおこなっていけるようにする。
新住人が	・町会に入って、もっと地域の繋がりができて欲しい。
地域住民が	・新住人に町会に入ってもらえるように、くらしの便利帳のような地域情報がのったものを作り、町会に入るメリットをアピールしていければいい。 例えば) ・防災マップ、緊急避難場所、非常食の場所、津波の危険地域、ふれあい喫茶情報、町会のイベント
マンション管理の不動産業者が	・新マンション入居者や、新住人に町会のことを知らせるようにして欲しい。町会に入るとこんなことがわかる。こんなことが助かるという情報を知らせて欲しい。
町会が	・住人の人に興味を持ってもらえるように、住民の声を町会が聞ける状態になってほしい。
子ども達が	・自主的に考えたものを発表できる場所(アゼリア大正のような)があって欲しい。
花とみどりの推進委員や緑化リーダー、グリーンコーディネーターが	・学校や公園で緑を植えることを進められるようになってほしい。そして、学校の子供達と一緒に作業し、子どもたちに花を植える、虫を観察することのできる環境(ビオトープ)を維持していけるようにしたい。 ・地域の人を巻き込んで活動し、そのことが世代間交流・近隣住民の交流につながってまちが明るくなってほしい。
地域と学校が	・連携して子どもを見守っていく姿勢になってほしい。 例えば) ・現在おこなわれている「はぐくみネット」をもっと活かしていく。

地域の人が	・北恩加島でおこなっている児童安全サポートが展開していき、学校で昔遊びや草木・花を植えるなどの活動ができるようになってほしい
子どもが	・ボランティアに参加して世代間交流ができればいい。
行政が	・地域活動に子どもから大人までたくさんの人が参加しやすくするために、地域でおこなわれる催しごとの日程が重複しないように配慮する。
障害を持っている方と子どもが	・一緒に花を植えるなどの活動を通じることにより、障害を持つ人の理解ができるような場がほしい。

③実現のためのアイデア

アイデア	わがまち会議が担いたいこと	協力者に担ってほしいこと		行政に担ってほしいこと
		主体	担ってほしいこと	
No.1 町会ぐるみの防災に取り組みたい	地域の防災マップの作成 →町会単位で防災時に避難場所までいけないときに非難場所やルートや、非常食の保管場所などを把握できるようにしておく	主に町会	緊急時に、近隣住民の安否の確認 …地域にどんな状況(車椅子・寝たきり・小さい子どもがいる)の方が住んでおり、非難時に手助けが必要なのかの把握する 緊急時に、誰が救援物資を取りに行くかとか、物資の分配方法などを迅速に対応できるように役割分担、その際の物資倉庫のカギの所持者も要検討	左記のサポート
No.2 地域と子どものかかわりをもっと密にしたい	小・中学校を利用して、子どもと地域の人と一緒に料理実習をできるような場を提供	小・中学校	子どもと学校の周辺に住む地域住民が、一緒に調理実習を行える機会を設ける また、そのような機会を設けるように教育委員会に働きかける(校長の采配で実行できるのでは…)	教育委員会が、小学校を利用して地域住民と子どもと一緒に調理実習を行うことを許可
No.3 自分のまちを住んでよかったと思えるまちにしたい(子どもたちのためにも)	大正区内にある食品製造会社の製品や、大正区内で採れる食材を使用して、小・中学校で子どもと地域住民と一緒に調理実習をする場を提供	大正区内の食品製造会社	地域の子供の食育のために賛同・協力してもらう	

その他

- ・学校、家庭、地域(町会)が一体となって子どもを育てていく。

⇒地域のつながり(子どもからお年寄りまでの交流)

地域の人が子どもたちに草木・花の植え方を教える。(区内の緑化リーダーが連携して学校と協働で)

- ・はぐみネットでおこなわれているような、老人会、町会ぐるみで学校に何かを教えに行くように広げていってはどうか。
- ・学校から要請を受ける地域(町会)が重要になってくる。
- ・マンション住人、新住人が町会に入らない・・・

マンション管理者、不動産会社に地域での取組みを知ってもらい、町会に入ってもらうように協力してもらう。

- ・マンションや分譲住宅の管理会社や持ち主から、入居件数に応じて町会費を徴収するようにする。
- ・災害が起こった時に地域で助け合いが出来る。
- ・災害が起こった時に地域の被害者の確認ができるために、地域で災害緊急名簿を作る。その際、個人情報保護を守るとは厳守する。また、個人情報保護の問題により、行政がおこなうと苦情を受けてしまうので、地域がそうしたものを運営するようにする。
- ・子どもを地域ぐるみで教育・見守っていく。
- ・ふれあい農園を、小学校だけでなく公園も利用できるようにしてはどうか。また、生涯学習・はぐみネットの取組みにする。ふれあい農園を広げるためには口コミで広げていくことが肝心。
- ・規制緩和で公園の一部を地域住民が自ら工夫できるようにしてはどうか。地域住民の中に該当者がいれば任せ、いないのなら公園愛護会に任せる方法をとる。
- ・昭和山の利用方法として、ビオトープとする。
- ・子供が地域活動に参加するようにするよう、親が子どもと地域活動に参加するなどし、機会を広げる。そうして、小学生・中学生に地域活動やボランティアに参加してもらい、交流を図る。また、小学校のキャンプに中学生・高校生・大学生にコースリーダーとして付き添ってもらい、交流を図る。以上のことをおこなう中で、子どもをジュニアリーダー(地域の担い手)として育てていく。
- ・小学生が地域内の工業・産業に触れ合う機会をつくる。地域の工業・産業からつくられるものに触れ合えるイベントをする。工場の壁面にその工場が何をしているのかわかるように、写真を貼る・絵を書くなどの工夫をする。
- ・地域の町工場や企業にも町会に入ってもらい、工場で働いている方と地域の方との交流を深めコミュニティを形成する。工場と住民との間で起こる問題も少しは解決しやすくなる。

「チワワの瞳」

キーワード：子どもがすくすく育つ街

～親子で参加できるようなイベントを通して、ふれあいが生まれる、親子の絆が生まれる、まちがきれいになる

①現在の資源及び課題

●資源

親子のふれあいイベント

PTA、社協、子ども会、青少年指導委員などが主催

(区全体のイベント)

- ・親子のどじまん大会
- ・ふれあいウォーキング
- ・区民ハイキング

(地域のイベント)

- ・ふれあい運動会(地域が中心で6月頃)
- ・マラソン大会
- ・餅つき大会
- ・盆踊り
- ・クリスマス会
- ・サマーカーニバル
- ・ふれあいフェスティバル
- ・ラジオ体操(夏休み)

●課題

- ・子どもどうし、親どうしのつながりが無く、また親が地域との関わりを持つ機会も少ないので地域全体で子どもを見守っていくという環境がづくりにくい。
- ・区内では子ども文化祭、スポーツ大会、ワンパク相撲などがあるが、親の参加も少ない。
- ・子どもをとりまく社会の仕組みとして学校、保護者、地域のつながりを強化していくことが必要。
- ・保護者と先生のふれあいが少ない。
- ・子どもに対してあまりにも過保護である。

②将来像

誰を・が	どのような状態 になったらいい
子ども	・自分を大事にする ・あいさつできる
保護者	・学校にまかせっきりにしない(自己責任) ・保護者同士でコミュニケーションがはかれる ・常識的な善悪がわかる
学校の先生	・子どもとのコミュニケーションができる ・愛情を持って子どもをしかれる ・まちの中を歩いている、地域のイベントに参加する

若者	・子どもをかわいがられる ・子どもからあこがられる ・自分のまちを大切に思う ・イベントなどで積極的にボランティアとして関わる(ジュニアリーダー)
近隣の大人	・子どもの気持ちがわかる ・保護者の気持ちがわかる ・子どもにあいさつを心がける ・子どもをしかれる
お年寄り	・社会的でコミュニケーションの場に出てくる ・昔の遊びや話を子どもに伝える
地域住民の団体	・横の連絡協議を活発にしている ・子どもに関わる行事を連携して行う
行政	・地域のイベントに自ら参加する
おまわりさん	・住民に気軽に声をかけてコミュニケーションできる ・世間話ができる

③実現のためのアイデア

アイデア	わがまち会議が担いたいこと	協力者に担ってほしいこと		行政に担ってほしいこと
		主体	担ってほしいこと	
No.1 (柱になること) 地域と学校と保護者をうまくつなぎたい	考え方、問題点、方向性を話し合う 自らの活動を地域の皆にPRする 交流の企画、アイデア出しをする	具体のプロジェクトに応じて相手はかわる いろいろ広げたい	一緒に企画、実践	わがまち会議の取り組みを継続し、PRしてもらう
No.2 (区全体で取り組みたいこと) 大正区ふれあいマラソン・種つき風船飛ばしを始めたい、続けたい	・区にアピールする(熱意を示す) ・企画する(メリット、課題を議論する)	体育指導委員 青少年指導員 子供会 PTA	現場で直接協力いただく	区役所 PR 警察調整 医療体制など
No.3 (地域レベルで始めること) 昔遊び大会を地域で始めて広げたい 例:子供会や、百芸塾でやっているような、お年寄りが子供に伝授するような簡単な催し	・すでにやっている地域に学び、活動を企画する、アイデアを出す ・協力してくれそうな地域や団体に呼びかけて一緒に考える	やっている地域の人(例:鶴町) 民生、女性会、社協… 子供と一緒に遊んでやろうというお年寄り	モデル役 先生役(見に来てもらう)	学校 理解してもらう 協力してもらう

その他

- ・親子で参加できるようなイベントを通してコミュニケーションをはかっていくことができるのではないかな。
- ・大会に向けて練習する中で子どもどうしのつながり(横、縦)や親どうしもコミュニケーションの機会がうまれる。
- ・あえて順番をつけることも子どもの成長にとっては重要。
- ・親ががんばってる姿を子どもに見せる場もあればよい。
- ・マラソンはいろんなコースを設ければ誰もが気軽に参加できるのでよいのでは。

(学校と保護者をつなぐ)

- ・運動会に保護者が参加できる競技をとり入れる。
- ・PTAの活動を活発にする。
- ・参観の後に子ども、保護者、先生が参加できるお楽しみイベント(スポーツなど)をやる。

アンケート結果を参考にする(ソフトドッチボールなど)。

みんなが参加しやすい(ソフトバレーなど)。

新しいスポーツを考える。

(保護者と地域をつなぐ)

- ・子どもを中心とするイベントに地域の人参加が増えるようなきっかけづくり。

誰でも参加できることを広報する。

声かけ(隣近所で誘い合う)。

(学校と地域をつなぐ)

- ・比較的うまく協力し合っている。

●アンケートの結果(フィールドワーク)

目的:子どもどうしのつながりづくり、親子や親同士のコミュニケーションなどを目的とする親子で参加できるイベントづくりのための事前リサーチ

対象:泉尾東小学校の児童

問:「クラスの友だち全員で遊ぶとしたら、あなたはどんな遊びがしたいと思いますか?」

結果:自分が今やっていることを答えており、偏りがあるかもしれない(先生も指摘していた)

低学年

男子 (101 名)

- 1 ドッチボール
- 2 おにごっこ
- 3 サッカー

女子 (97 名)

- 1 ドッチボール
- 2 おにごっこ
- 3 こおりおに

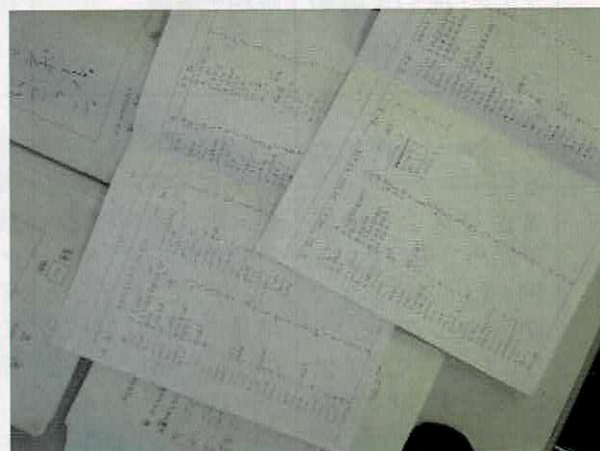
高学年

男子 (90 名)

- 1 キックベース
- 2 ドッチボール
- 3 ラケットベース

女子 (94 名)

- 1 キックベース
- 2 ドッチボール
- 3 おにごっこ





泉尾公園



小林公園横のグラウンド～サッカー少年チーム練習風景



小林小学校校庭グラウンド～明日の試合に備えた練習試合

「ぐるっとリバー」

キーワード：区域を全部水で囲まれた区ならではの水辺環境を

①現在の資源及び課題

●資源

- ・区域を全部水で囲まれた区はめずらしい。特徴のある地形。
- ・水がきれいになっている。近郊の漁師が大正内港にきてタチウオの稚魚をとり、地元を持ち帰っていると聞いた、ほかにも釣りスポットは多い。かもめが飛んでいる、夕日がきれい。

・橋、渡船

水で囲まれているだけに橋が多い。7つの渡船も貴重。マリーナもいくつかある。

渡船巡りには他区からの参加者も多く、人気がある。



①



②

・水門

水門が多い。形もユニークで絵になる。水門の中は水が近く、楽しい使い方ができそう。三軒家水門の中の工場は川を向いて建っている。



③



④

・水上バー

実は静かで心地よい空間。水が近い。船でのアクセスが新鮮でオシャレ。こんなところは大阪にない！イタリアのベネチアのようなイメージ。



⑤



⑥

・大正内港

内港の栈橋、多くの船。汚いところもあるがにぎわいがある。

はしけは貴重な資産。



⑦



⑧

・鶴浜埋立地

観光船が寄港してほしい。今後の整備に期待。



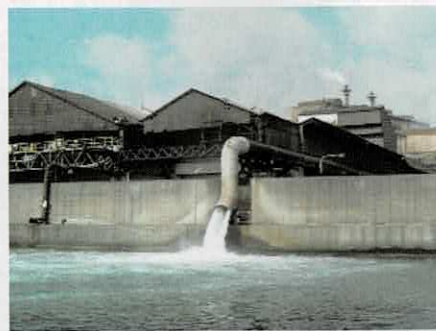
⑨



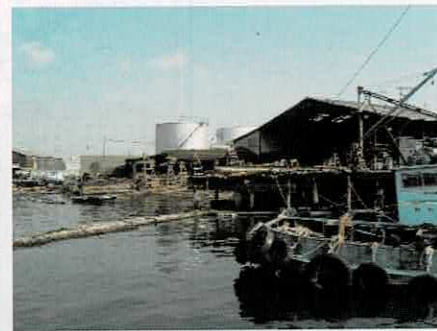
⑩

・工場、造船所

NHK の連ドラにも登場した造船所がある。映画のロケ地にも。中山製鋼の工場群は最先端の技術でリサイクル、世界の環境改善に寄与。



⑪



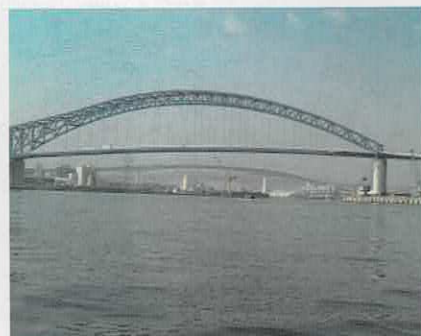
⑫

・自然

水鳥、水面沿いの公園、など。

・眺望

大正内港からの西の眺めは、千歳橋、なみはや大橋、港大橋が重なって見えてすばらしい。東側は昭和山がフランスのニースのような景色。絶景ポイント。



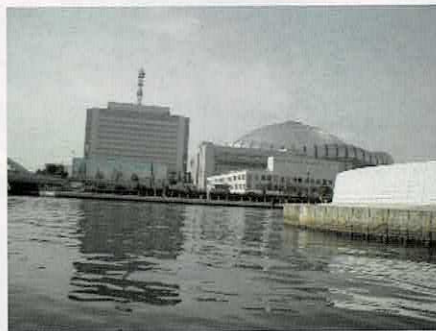
⑬



⑭

・大正の入り口

大阪ドーム、大正橋、大浪橋など。



⑮

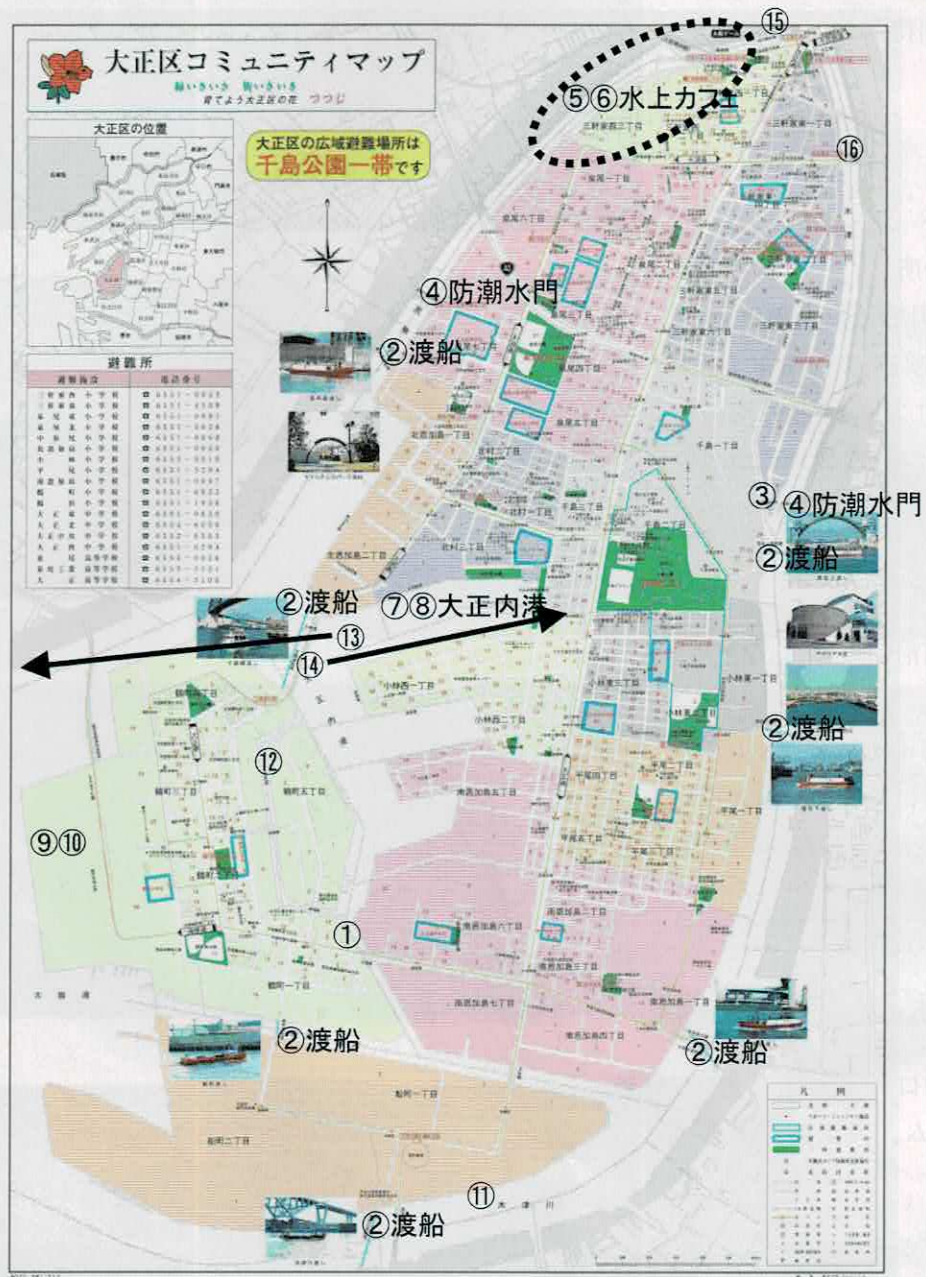


⑯

行政の取り組み

- ・大正通りから見えるように、すべての渡船乗り場の案内板を行政で新設予定(平成16年度から順次)。
- ・渡船マップ。
- ・環境改善、公害規制の監視体制を整えている。

各資源の位置図(前頁、前々頁の写真と番号で対応)



●課題

- ・港区や南港と比較すると大正の水辺はあまりにもさみしい。また、車が不法投棄されるなど環境が悪い。
- ・渡船の乗り場がわかりにくい、もっと近所の人が寄れるものにするなど、使いやすいものにしたらどうか。
- ・大正区はほとんど堤防で囲まれている状況。それも工場が多く近くにいけない。全部内側の環状道路沿いにある。川から見てみないとイメージが湧かないので、船の旅を体験できるようになったらいいのに。
- ・水辺は工場のため陸からアクセスできない、となると川からアクセスできる工夫を。
- ・子供の時から水辺には行くな！とシャットアウトされている。
- ・産廃の工場が立地しつつある。環境面の問題がある。

②将来像

誰を・が	どのような状態 になったらいい
大正区に関わる市民・企業	・水をきれいにという意識を持つ ・川に囲まれているという意識を持つ
水の周りに住んでいる者	・川や水に愛着を持つように ・気軽に一周できる水上交通がある
企業・工場	・環境基準をクリアするものが参入する ・操業しやすい環境・ゾーンをあらかじめ決める
行政	・水辺の工場跡地を自由にできるよう ・鶴浜を自然と共存できるよう ・海沿いの道をきれいに、ゴミないように ・岸壁の無償活用、歩けるように
市民・観光客	・道頓堀・大阪ドーム・鶴浜まで遊べる ・ぐるっとリバーの観光コースができる
若者	・水辺で遊べる、情報発信、地域を意識する ・大正区に来街するよう(大学など)
渡船	・渡るだけでなく、ぐるっと一周
水上タクシー・観光船	・赤バス感覚で気軽に通勤ができるよう
釣り客・レジャー客	・どうしても釣りができる
飲食など企業	・水辺に出店できる
子供	・危なくなく気軽に水にふれあえる ・水から遠ざげない
ボート競技などスポーツ愛好家	・レース・競技イベントを楽しめる
岸壁の所有者	・楽しく使えるように理解してもらう

③実現のためのアイデア

アイデア	わがまち会議が担いたいこと	協力者に担ってほしいこと		行政に担ってほしいこと
		主体	担ってほしいこと	
No.1 水上交通を運行する (大正駅⇄水上カフェ⇄鶴浜⇄南港や天保山の尻無川ルート)	コース設定 企画提案	運行者 船所有者	クルーズ協力	鶴浜緑地整備 棧橋の設置

No.2 川から見ておもしろいスポットを増やす・PRする	写真展開催 (水に囲まれていることを実感) 区民祭などにて	企業 (川辺の地権者) 漁業協同組合	倉庫などを集客施設に貸す 青空市・イベント開催	都市計画などの規制見直しにより河川の様々な使い方を可能に 川沿いの飲食店の規制見直し
No.3 ぐるっとリバーコースを企画する (レンタサイクルで渡船、カフェでお茶、水上タクシー利用など)	現地調査 コース設定	旅行代理店 水上カフェ関係者	来街者を連れてくる コースを組む	自転車道の整備 レンタサイクルシステムの整備

その他

- ・今ある渡船場を活かす。

渡船場を経由して大正区を一周する定期クルーズを運行。

渡船場にカフェを併設（昔は一杯飲み屋が併設されていた）。

今実施しているふれあいウォークを渡船ラリーにする。

渡船は自転車に乗れるところがいい！大正駅にレンタサイクルを完備して渡船ラリーを実施、橋の上り下りラリーもあり。

渡船ゆえ隣接区と共同イベントを実施。

- ・水辺のふれあいスペースをつくる。

水辺のほとんどは工場なので、工場と協力し水際に少し一般の人が入れるスペースをつくってもらい、水とふれあえるように。

堤防の奥（水辺側）に安全で水にふれあえるスペースをつくる。

堤防沿いに木を植え、グリーンベルトのようにし、陸から見てここが川とわかるように。

- ・子供の頃から水辺にふれあう。

学校で水辺を使ったプログラムを実施。

内港でスケッチをするなど。将来は泳げるように。

- ・海、川から見ておもしろいスポットを増やす。

中山製鋼のパイプ。

水上レストラン。

映画のセットのような古びた造船工場、など発掘。

- ・水上交通を運行。

現在運行を始めている水上タクシーを1000円程度で利用できるように。

鶴浜の開発地と南港、天保山とつなぐ。

- ・公共の栈橋、マリーナをもっと整備する。

- ・堤防沿いの遊歩道を整備し、気軽に水辺にアクセスできるように。

- ・天神祭の船渡御を大正区まで。



大正区一周クルーズにて

3. 本格実現へ向けた試行（トライアル）企画

(1)企画チーム

大正未来わがまち会議は、区の将来像や実現のためのアイディアについて提案を行うことが与えられた役割ですが、各グループの提案内容が来年度以降に本格実現できるよう、今年度の残された2～3ヶ月間にできる範囲内で、自主参加で企画の試行をしてみようということになりました。

5つのグループが相互に話をしながら、一緒にまたは単独で取り組む企画を考えたところ、次の3つの試行企画が生まれました。

企画①：地域資源発掘（企業見学等）

メンバー：「人自慢・まち自慢」のメンバー中心

ねらい：大正区の智恵や財産を集め、新しい組み合わせを生むような交流拠点をつくりたい。そのため、地域の財産を発見しようという目で地域を見るのが大切。第一歩として、大正区に多く存在する、独自の技術を持つ企業を見学する。

企画②：防災マップのモデル作成

メンバー：「大正をよくしようプロジェクトB」、「ふれあいまちづくりグループたいよう」のメンバー中心

ねらい：町会に入る人が減っている。町会を基盤にした人のつながりが災害時に大切になるという想いのもと、様々な人の立場で防災マップに掲載したらいい項目は何か、防災に加え町会活動の情報やバス時刻表など便利情報も含んだマップをモデル的に作成する。

企画③：子どもと船で大正区一周

メンバー：「チワワの瞳」、「ぐるっとリバー」のメンバー中心

ねらい：水に囲まれたまち大正区の魅力や問題を、普段と異なる水からの視点で将来を担う子供たちに体験してもらいたい。試験的に子供たちと船で大正区を一周し、そこでの反応やアンケートなどの意見を参考に、本格実施のプランを探る。

(2) 試行結果

上記の3つの企画について、下記のような取り組みを行いました。

企画①：地域資源発掘（企業見学等）

- ・ H17.11.26 12:00～ チャイ工房にて
様々な区内資源の整理
- ・ H18.1.17 19:00～ 第12回わがまち会議（大正区役所）にて
企業見学の予定決定、区内の様々な情報マップの整理
- ・ H18.2.6 10:00～ ㈱ダイカンにて
独自の技術を持つ企業の見学、職場体験の課題と希望について



企画②：防災マップのモデル作成

- ・ H17.12.2 19:00～ 大正区役所会議室にて
防災マップへの掲載項目の出し合い
- ・ H18.1.17 19:00～ 第12回わがまち会議（大正区役所）にて
防災マップ作成は、防災活動を通じて地域コミュニティにつなげるため
地域の人と一緒につくれるように、マップへ盛り込む要素を各自の視点で再整理しよう
その際、「どういった人を」、「どういった災害を」対象にするのかを意識しよう
- ・ H18.2.1 10:00～ 大正区内現地にて
ある具体的な地域で、家から学校まで車椅子で避難可能なコースを実地確認



■防災マップのモデル(目的別に作成)

●車椅子利用者のための安全な避難経路マップ

(家→学校内まで車椅子で通行可能なルートを実地調査)



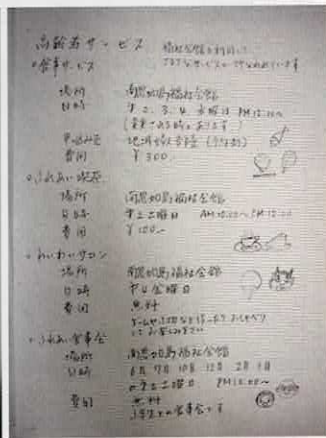
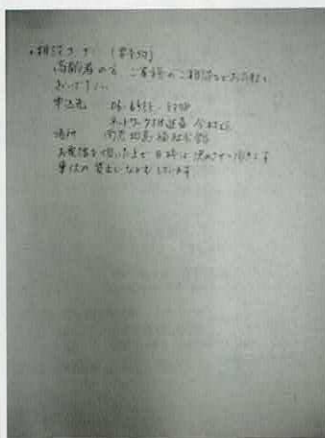
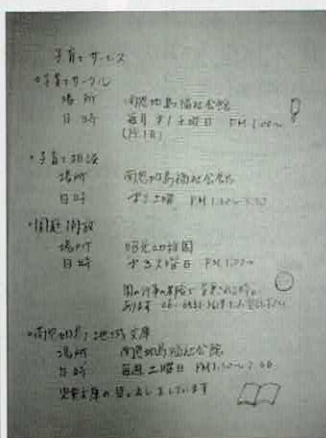
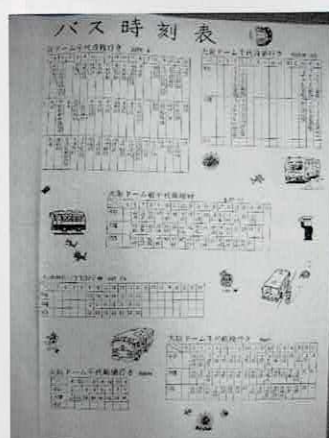
●津波時避難のための建物マップ

(浸水時に備え3階以上の建物を色分け)



●地域の便利マップ

(育児・高齢者・防災・防犯・バス時刻表などを一冊に集約)



企画③：子どもと船で大正区一周

- ・ H17.11.16 19:00～ 大正区役所会議室にて
平成18年度子ども夢基金の企画書作成（後日11月中に申請）
今年度中に1回試行したい、子ども会へのプレゼン企画の作成
- ・ H18.1.17 19:00～ 第12回わがまち会議（大正区役所）にて
2/8の区子連の会議にプレゼンすることに決定、事業費を捻出し子どもに参加してもらうため
- ・ H18.3.10 19:00～ 尻無川沿いお店にて
3/26のイベント内容の詳細、各自の役割分担の決定



■企画概要

1. 名称：「子どもと一緒にぐるっとリバー」
2. 主催…大正未来わがまち会議内の「大正・子ども体験隊」
3. 主旨

大正区は川と海に囲まれ（日本の行政区の中で2カ所しかない）、渡船など全国的にも珍しい資源や美しいスポットなどがたくさんあります。ぜひとも子供達に自分達の住んでいるところを、視点を変え船の上から自分たちの目で見て、肌で感じてほしい、そして地域への愛着をもってほしいという想いで実施いたします。

この企画は試行企画であり、参加した子ども達にアンケートを行い、それら意見を参考に来年度本格的な実行を目指しています。事業に際しては子ども会の協賛をいただいています。

4. 開催日時…平成18年3月26日（日）10:00～12:00
5. 集合場所…大阪ドーム前岩崎港 9:50
6. 内容

- ・ 小学生約30人が船に乗り、大正のおもしろスポットを水辺の視点から体験
- ・ 大阪ドーム前岩崎港→木津川→大運橋→内港→福町堀→内港にて別の船からお菓子手渡し→内港はしけ→尻無川→大阪ドーム前岩崎港
- ・ 当日参加の子どもにアンケート実施

当日配布のアンケート

ア ン ケ ー ト



学校名(_____)

学 年(_____ 年 _____ 組)

名 前(_____)

今後の参考のためにアンケートに答えてください。できるだけ沢山の意見を書いてね！〔該当するところに○印や、その()内に意見を書いてね！〕

★大正区は『アイランド』だって知っていましたか？
 ・知っていました。 ・知らなかった。 ・その他(_____)

★今までに、船に乗って大正区や大阪の川を見学したことはありましたか？
 ・あり(_____ 回) ・なし

★今日、大正区を船上から見学して、どう思いましたか？
 (思ったこと全部に○印をして、その理由も書いてね。)
 ・楽しかった。 ・楽しくなかった。 ・きれいだった。 ・汚かった。
 ・すごく感動した。 ・残念だった。 ・臭かった。 ・びっくりした。
 ・その他思ったこと。(_____)
 その場所と理由 (_____)

★大正区の新しい発見はありましたか？それは何ですか。
 (_____)

★西村区長さんの印象はどうでしたか？
 (_____)

★また、このようなイベントがあれば参加したいですか？
 ・はい ・いいえ ・その他(_____)

★あなたが喜ぶ体験をいろいろ考えています。どんな体験をしてみたいですか？
 (_____)

★未来の大正区はどんな町になっているかな？
 あなたたちはどんな大正区になって欲しいですか？
 (_____)

※ご協力ありがとうございました。



大正・子ども体験隊
代表 東道 美智子



当日の様子



(3)その他関連した動き

未来わがまちビジョンについて話し合っている間にも、少しずつですがアイディアが現実のものになっていきました。先進的にある地域ですで行われていた活動が他地域に広がったもの、わがまち会議でのアイディアが区役所や地域有志により実施されたものなど様々ですが、新しい芽が出てきています。それらの動きの一部をご紹介します。

児童安全サポート
H17～（7校区に拡がり）



ふれあい花壇
H17～（北恩加島地域）



大正区一周クルーズ
H17.7.2（大正区）



はぐくみネット
H14～（3→8校区に拡がり）



ふれあい農園・ふれあい食事会
H16・H13～（南恩加島地域）



大正～中之島クルーズ
H17.11.2・3（船会社）



大正おもしろいお店 MAP
H17.11（大阪商工会議所大正・浪速・西成支部）



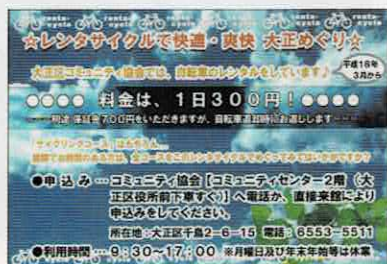
大正ガイドマップ
H18.2（大正区コミュニティ協会・大正区）



第1回ファミリージョギング大会
H18.2.12（大正区コミュニティ協会）



レンタサイクル（1日300円）
H18.3～（大正区コミュニティ協会）



懐かしい大正区の風景（写真展）
H18.3～5（なにわの海の時空館）



料理講習会（食育）
H18.4.6 予定（大正西中校下）



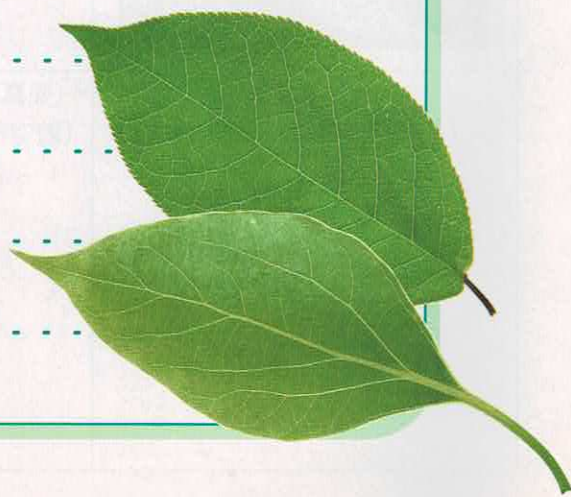
4. 実現にむけて

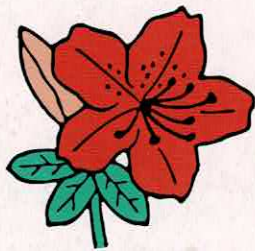
「大正区未来わがまちビジョン」とは、各地域組織からの推薦や公募により集まった「大正未来わがまち会議」の委員が、約2年間にわたりまちを実際に歩き話し合いを重ね、生活者の立場で試行錯誤しながらとりまとめた、10年後わがまちがこうなっていてほしいという将来像やそれを実現するための具体的なアイデアの提案です。

現在の「大正未来わがまち会議」は、3月末でビジョンを提案する会としての役割を終えることになります。ビジョンを具体的に実践していくため、わがまち会議の発展的形態の「新たな活動組織（仮称：大正区まちづくり委員会）」により、区内で同時に進められている、共通の目的を持つ「地域福祉計画アクションプラン」とともに重点アイデアの実施から取り組んでいきます。

興味を持たれた方、ぜひ一緒に活動しませんか？

Handwriting practice area with 18 horizontal dotted lines.





大正区の花 つつじ

大正区未来わがまちビジョン

発行年月：平成18年3月

編集・発行：大正未来わがまち会議

発行協力：大正区役所区民企画室